

同じ意欲を、違う視点で中小企業の 事業支援に挑む2人の若手税理士

なに「スマート」流行りの昨今、その中心にいる今の30代半ばと言え、最新ITガジェットを悠々と使いこなすデジタルネイティブ。ましてや士業となれば、これから迎えるAI・DX時代で必須となる合理化・効率化の先導役、クールでドライな心強いブレン。

そんなイメージも間違いではないが、プラスアルファの「熱き心」で上昇気流に乗る若手税理士もいる。2016年に開業した税理士法人福井・林財産コンサルタンツは、相続対策・事業承継からM&A・組織再編まで、年々事業に厚みを増している気鋭のオフィスだ。創業者の福井一弘氏が35歳、3年後に参画した林諒氏は34歳と、2両名ともミレニアル世代。先輩・後輩の間柄だった証券マン時代に培った顧客本位のサービス姿勢をそのまま持ち込み、絶大な信頼を集める。

手続きではなく想いの共有

「本音」に寄り添う事業承継

「税理士の先生」ではなく、同じ課題を共有するパートナーでありたい。そんな理念を前面に押し出す両氏は、それぞれに専門領域が異なる。1年先輩の福井氏は、相続とともに事業承継が専門。中小企業の経営者交代や株主変更を円滑に行うための方法を提案して実行支援を行うのが仕事だが、事情も意向も千差万別であるのが中小企業の常だ。

「事業承継をお考えの経営者が必要としているのは『先生』ではなく、本心を包み隠さず話せる相談相手。税務・財務の専門家であることは当然ですが、その前に優れた聞き役でなければなりません。先代は後継者に対して何が心配で、どう引き継いでいってほしいのか。一方、後継者はそもそも引き継ぎたいと思ってい



代表税理士
福井一弘 (ふくい かずひろ)

上智大学法学部法律学科卒業後、証券会社に入社、リテール営業を行う。大学院を経て税理士資格取得。2016年1月より「福井財産コンサルタンツ税理士事務所」として活動を開始。2019年8月に法人化、今に至る。近畿税理士会所属。

東京事務所代表
林諒 (はやし りょう)

横浜国立大学経済学部卒業後、証券会社に入社し、リテール営業及び広報部での勤務を経験。都内大手税理士法人にて、法人税務全般に加え、多くのM&A案件を担当。2019年に税理士法人福井・林財産コンサルタンツに参画。東京税理士会所属。

るのか。引き継ぎたいと思っていれば、いつ、どのように。また、引き継ぐために不安なことは何なのか。このような先代、後継者双方の具体的なニーズを正確に把握できなければ、成功する提案もあり得ませんから」(福井氏)。



経験値が不足している後継者にバトンを渡すには、「今すぐ」というわけにはいかないこともある。そこで、互いに言えない部分まで両者の本音を聞き出し、スケジュールを立て、完成形を提案する。事業承継は手続き論ではなく、後継者育成計画の一面もあり、また、会社の未来計画図作成の一面もある。手間も時間もかかるが、「顧客がづらい局面で笑えるわけがない」という人間味を前面に出すからこそ、彼の顧客は口を開くのだ。

頑張る経営者を支援する

時代性を活かす

一方、東京オフィスの代表として迎えられる林氏はM&A・組織再編や資金調達のサポートが専門。最近では中小企業でも組織拡大の手段として事業買収を推進する企業が増えているが、資金調達からキャッシュフロー、税務リスクまで、そこには検討課題が山積している。そんな

ニーズに対し、デューデリジェンスをはじめとする専門サービスを提供する。「中小企業で顕著ですが、会計帳簿作成の依頼先はあっても、資金調達やM&Aの相談先には心当たりがないというケースが想像以上に多いのが実情です。今話題となっている事業再構築補助金をはじめ、最近では『生き抜こう』『チャレンジしよう』という会社を手厚く支援する傾向が強まっていますので、こうした情報も漏らさずお届けしながら経営意向に沿った成長戦略をご提案していきたいです」(林氏)



件の事業再構築補助金では、第1回締切分について、7件の申請に関わって満額2件を含む全件が採択されたという凄腕ぶりを発揮する同事務所。両輪がガツチリと噛み合う根本には、YOUではなくWEとして考える「理念がある」。「私は未来へと繋ぎ、林は未来へと育てる。『税理士が教える』のではなく『一緒に未来を考える』姿勢を打ち出すことによって、弊所が掲げる真の顧客本位のサービスが実現されるものと思っています。それを地道にコツコツとご提供し続けることで、皆様の未来が切り開かれていくのであれば、そんなうれしいことはないと考えています」(福井氏)